臺灣昌新報（夕刊）
五月九日
臺北佐久人行設發編
電話本社日丁四町芝市北區
社業部日報臺所行設

元老派穩健分子 俄かに和平策動

蔣政府部内に動搖

【香港八日發同盟】重慶からの情報に依れば首都脫出の大騒ぎを受けた重慶では八日午後に至り我が有力部隊の一部が重慶に入城し治安の維持に當つてゐるとの事であるが、重慶の治安は依然として極めて不安な狀態にあつて王寵惠、宋子文、王正廷、許世英等の歸來で、この二派はにわかに和平運動を展開することは疑はれ最後の立場に追ひ込まれた蔣政權は、この二派を利用して和平運動を封じ込めようとするものであると見、この二派と英米に關係深い孔祥熙、宋子文等の一派との間に激しい抗爭が展開されてゐるが、その抗爭の背後には重慶の動搖を物語るものがある

【重慶八日發同盟】重慶からの情報によれば首都脫出の大騒ぎを受けた重慶では八日午後に至り我が有力部隊の一部が重慶に入城し治安の維持に當つてゐるとの事であるが、重慶の治安は依然として極めて不安な狀態にあつて王寵惠、宋子文、王正廷、許世英等の歸來で、この二派はにわかに和平運動を展開することは疑はれ最後の立場に追ひ込まれた蔣政權は、この二派を利用して和平運動を封じ込めようとするものであると見、この二派と英米に關係深い孔祥熙、宋子文等の一派との間に激しい抗爭が展開されてゐるが、その抗爭の背後には重慶の動搖を物語るものがある

敵陣内は大混亂

重圍に陷つた事が知れて 北方へ血路を求む

敵軍は潰亂

【大本營八日發同盟】八日午前八時半くも五百里北方八幹平地に展開する敵を擊滅して破竹の進擊を續けた我が同日正午河口村の東北方八幹の敵を殲滅し更に進擊を續け午後七時には五百里同地點の敵の主力は雜牛坡附近の山地十數幹を據點として頑强なる抵抗を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

【大本營八日發同盟】八日午前八時半くも五百里北方八幹平地に展開する敵を擊滅して破竹の進擊を續けた我が同日正午河口村の東北方八幹の敵を殲滅し更に進擊を續け午後七時には五百里同地點の敵の主力は雜牛坡附近の山地十數幹を據點として頑强なる抵抗を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

敵の堅陣を奪取

【廣東九日發同盟】我陸北方地區の友軍破竹の進擊に乘じ我が精鋭部隊の一部は八日午前一時猛烈なる砲撃を加へて敵の堅陣を奪取し更に進擊を續けたが敵は我が進擊を阻止せんとして逆襲を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

【廣東九日發同盟】我陸北方地區の友軍破竹の進擊に乘じ我が精鋭部隊の一部は八日午前一時猛烈なる砲撃を加へて敵の堅陣を奪取し更に進擊を續けたが敵は我が進擊を阻止せんとして逆襲を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

宜昌を爆撃

【上海八日發同盟】外人側報道に依れば我が航空部隊は四日より連日宜昌を襲撃、重慶〇〇飛行場及び市内軍事施設に大打撃を與へた、我が航空機は敵地の動態は勿論のこと敵地の一擧一動をも逐一うつるる關係である

【上海八日發同盟】外人側報道に依れば我が航空部隊は四日より連日宜昌を襲撃、重慶〇〇飛行場及び市内軍事施設に大打撃を與へた、我が航空機は敵地の動態は勿論のこと敵地の一擧一動をも逐一うつるる關係である

敵陣内は大混亂

重圍に陷つた事が知れて 北方へ血路を求む

敵軍は潰亂

【大本營八日發同盟】八日午前八時半くも五百里北方八幹平地に展開する敵を擊滅して破竹の進擊を續けた我が同日正午河口村の東北方八幹の敵を殲滅し更に進擊を續け午後七時には五百里同地點の敵の主力は雜牛坡附近の山地十數幹を據點として頑强なる抵抗を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

【大本營八日發同盟】八日午前八時半くも五百里北方八幹平地に展開する敵を擊滅して破竹の進擊を續けた我が同日正午河口村の東北方八幹の敵を殲滅し更に進擊を續け午後七時には五百里同地點の敵の主力は雜牛坡附近の山地十數幹を據點として頑强なる抵抗を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

宜昌を爆撃

【上海八日發同盟】外人側報道に依れば我が航空部隊は四日より連日宜昌を襲撃、重慶〇〇飛行場及び市内軍事施設に大打撃を與へた、我が航空機は敵地の動態は勿論のこと敵地の一擧一動をも逐一うつるる關係である

【上海八日發同盟】外人側報道に依れば我が航空部隊は四日より連日宜昌を襲撃、重慶〇〇飛行場及び市内軍事施設に大打撃を與へた、我が航空機は敵地の動態は勿論のこと敵地の一擧一動をも逐一うつるる關係である

敵の堅陣を奪取

【廣東九日發同盟】我陸北方地區の友軍破竹の進擊に乘じ我が精鋭部隊の一部は八日午前一時猛烈なる砲撃を加へて敵の堅陣を奪取し更に進擊を續けたが敵は我が進擊を阻止せんとして逆襲を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

【廣東九日發同盟】我陸北方地區の友軍破竹の進擊に乘じ我が精鋭部隊の一部は八日午前一時猛烈なる砲撃を加へて敵の堅陣を奪取し更に進擊を續けたが敵は我が進擊を阻止せんとして逆襲を試みたが我が精鋭部隊の攻擊に遭ひ潰走を續けつゝあり

中央軍成都へ

【重慶八日發同盟】重慶來電に依れば四川に進駐せる中央軍の大部隊は四日夜より俄然大移動を開始し五日昌翁間鐵路外に於ける樺木溝驛下の敵殲滅に二千と覺兵の一部はトラック數百臺に分乘し急ぎ成都に向つて出發し方餘、大竹縣第一帶に待機中の中央軍主力は順次部隊を以て第公路に沿つて西進中と言はれる、因に重慶の關心に伴ふ疎開問題を繞り四川軍の不穩なる動向が傳はる折柄中央軍今回の移動は政治的中心の成都移轉を經へて動搖常ない著眼を抑へて中部四川を固めんがためと解される

【重慶八日發同盟】重慶來電に依れば四川に進駐せる中央軍の大部隊は四日夜より俄然大移動を開始し五日昌翁間鐵路外に於ける樺木溝驛下の敵殲滅に二千と覺兵の一部はトラック數百臺に分乘し急ぎ成都に向つて出發し方餘、大竹縣第一帶に待機中の中央軍主力は順次部隊を以て第公路に沿つて西進中と言はれる、因に重慶の關心に伴ふ疎開問題を繞り四川軍の不穩なる動向が傳はる折柄中央軍今回の移動は政治的中心の成都移轉を經へて動搖常ない著眼を抑へて中部四川を固めんがためと解される

襄陽東南方地區に 我が第一線は進出

猛襲に主陣地は潰滅

【重慶八日發同盟】○○戰地の我が陸軍は前日二日襄を入日早朝一舉に基地を飛出し、今や大包圍殲滅戰に入つた、○○基地に終結した敵第五戰區○○軍は、○○を中心とする北部戰線より南に向ひ、○○、○○、○○

支那側のヨタ宣傳
現地を見て吃驚
四月攻勢どころか治安は全し
外人記者團九江を視察

【廣東八日發同盟】七日着福佐丸にて香港着の外人記者團ロイターのハウー氏等一行七名は南支派遣軍報道部中村少佐に引率されて九江、江州二帯を視察したが、記者團一行は途中で敵側のデマ宣傳に依つて同月攻勢を信じ九江學生にも支那軍に協力を強ひられ居るものと考へてゐた事實に相違して全く治安が確立し戰禍の影さへ認めることが出來ず、市民は皆最後の勝利の下に安堵の表情を浮べ居るを見て驚いた

禁酒法を潜る業者を嚴罰
北署で防犯網を張る

本島に未成年者飲酒禁煙法が施行されてから一年餘りを經過し、その間全島各地警察當局は夥しき街の周知徹底に努め來り退役者に對し同法を嚴用せず啻に厳に止めてゐたが最近大稻埕方面の本島人菓店に未成年者が煙草を購入飲酒、喫煙を敢行し業者はこれを制止せず徒等の處置を默認してゐるので北署防犯係では愈々注意中のところ、八日夜南門町一丁目松倉屋に本島人少年四名（いづれも十八歳未滿）が揃ひも揃ひ

薄倖な永田老夫婦に救ひの手

"哀れな老夫婦"に温い救ひの手が伸べられ、聞ゝ本紙社會課に依つてこれを知つた市民は殺ゝと同情並寄せてゐるが府入澤警務局理事官もこの微笑ましき老夫婦の身の上に鑑み同情し九日本紙を通じ金一封を永田老婦に與へて下さいと寄せて來たので本社では直ちに市社會課を經て老夫婦にこれを贈呈したが老夫婦は感激の餘り

國民學術協會誕生
總ゆる學派と學閥を超越して
純學術團體として貢獻

【臺北電話九日發同盟】新しい日本文化の創造的な面によつて高度つけ給ゆる學術學問を總動員し實力と權威とを發揮し、學術學問體制を組織しようと云ふ出來合團體結成氏が後援となつて生れた國民學術協會の發會式が八日夜臨時入工において開かれた

石橋綱一、澤邊重雄、高橋龍一郎、澤左右四、桑木彼雄、細川嘉六、正宗白鳥、佐野美一、松本烝治、戸田海市、阿部眞一、西澤俊介、松前重義、三木清、橋中雄作の諸氏が出席

先づ會長に桑木氏、幹事に高橋、船越、三木、澤邊、松本、岸中氏等十二名を選擧し

一、日本文化の創造を目的において日本文化學の綜合研究、

二、東亞及び支那についての現代的諸問題の研究、

三、日本における文化團體の國策なる既存作品の外國紹介及び發表の招聘と派遣

などの議題について夫々意見の開陳が為されたが、同會は今後有意義な研究の援助や表彰をも行ひ民間における學術界の權威たらんと意氣込んでゐる

憲兵忠魂碑前で嚴かな招魂祭
けさ圓山墓地での盛儀

九日は憲兵創立記念日に當り同日午前八時から台北市内山國民墓地内の故小島憲兵少佐以下七百二十二柱の英靈を祀る憲兵忠魂碑前で嚴かな招魂祭が執り行はれた、當日は西澤憲兵隊長並に田中憲兵參謀長、藤澤憲兵隊長、栗原憲兵分隊長、古山憲兵司令部副官長、伊藤憲兵隊長、石井憲兵隊長、竹田憲兵分隊長、吉田憲兵少尉がいちらしい心根に感激コロンビア・レコード主任、丸屋元錂氏に傳へ明本京劇、竹田憲兵分隊長、吉田憲兵少尉がいちらしい心根に感激コロンビア・レコード主任、丸屋元錂氏に傳へ明本京劇、竹田憲兵分隊長、吉田憲兵少尉がいちらしい心根に感激コロンビア・レコード主任、丸屋元錂氏に傳へ明本京

無線をスピード化
東京、上海間に電送寫眞

【東京九日發同盟】郵政當局では無線通信のスピード化を圖るため無線電信は今日までに世界各國に二十八回線、無線電話は十四回線を開いてゐるが、更に今後五ヶ年計畫で電信を二十二回線、國際電話を十四回線、電送寫眞を十二回線開設する大計畫を樹て夫々相手國に交渉を進めてゐるが本年は六月下旬に新規（無線電信回線を開設するのをトップにアフガニスタン、ペルー、ベルギーなどと新次開設し國際電話はロンドンやベルリンを經由してフランスやベルリンを經由してフランス、ベルー、ブラジル、濠洲と

南港で貨車脫線
上下線ダイヤ大混亂

【東京九日發同盟】昨年三月杉、台北發午前四時三十分南行旅客列車が八堵驛構内の分岐點を過ぎた際、突如後部客車一輛が脫線顚覆し、後續の二輛も脫線顚覆したが、幸ひ乘客は全部無事で、この事故のため上り貨物七〇四列車が八堵驛で、急行一〇三列車が基隆驛で、夫々約二時間宛の遲延を來したが、この事故のため上下線ダイヤは大混亂を來し、左の如き運轉變更又は運轉中止が行はれ正午頃全部に復した

一、第一〇三列車は基隆發午後一時二十分を三時に變更
一、第一〇四列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第一〇五列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第一〇六列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第一〇七列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第一〇八列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第一〇九列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第一一〇列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第一一一列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第一一二列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第一一三列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第一一四列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第一一五列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第一一六列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第一一七列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第一一八列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第一一九列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第一二〇列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第一二一列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第一二二列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第一二三列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第一二四列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第一二五列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第一二六列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第一二七列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第一二八列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第一二九列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第一三〇列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第一三一列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第一三二列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第一三三列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第一三四列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第一三五列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第一三六列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第一三七列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第一三八列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第一三九列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第一四〇列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第一四一列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第一四二列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第一四三列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第一四四列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第一四五列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第一四六列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第一四七列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第一四八列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第一四九列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第一五〇列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第一五一列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第一五二列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第一五三列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第一五四列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第一五五列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第一五六列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第一五七列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第一五八列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第一五九列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第一六〇列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第一六一列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第一六二列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第一六三列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第一六四列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第一六五列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第一六六列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第一六七列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第一六八列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第一六九列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第一七〇列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第一七一列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第一七二列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第一七三列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第一七四列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第一七五列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第一七六列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第一七七列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第一七八列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第一七九列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第一八〇列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第一八一列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第一八二列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第一八三列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第一八四列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第一八五列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第一八六列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第一八七列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第一八八列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第一八九列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第一九〇列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第一九一列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第一九二列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第一九三列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第一九四列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第一九五列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第一九六列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第一九七列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第一九八列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第一九九列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第二〇〇列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第二〇一列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第二〇二列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第二〇三列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第二〇四列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第二〇五列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第二〇六列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第二〇七列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第二〇八列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第二〇九列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第二一〇列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第二一一列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第二一二列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第二一三列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第二一四列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第二一五列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第二一六列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第二一七列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第二一八列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第二一九列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第二二〇列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第二二一列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第二二二列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第二二三列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第二二四列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第二二五列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第二二六列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第二二七列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第二二八列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第二二九列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第二三〇列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第二三一列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第二三二列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第二三三列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第二三四列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第二三五列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第二三六列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第二三七列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第二三八列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第二三九列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第二四〇列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第二四一列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第二四二列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第二四三列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第二四四列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第二四五列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第二四六列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第二四七列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第二四八列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第二四九列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第二五〇列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第二五一列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第二五二列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第二五三列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第二五四列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第二五五列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第二五六列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第二五七列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第二五八列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第二五九列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第二六〇列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第二六一列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第二六二列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第二六三列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第二六四列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第二六五列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第二六六列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第二六七列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第二六八列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第二六九列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第二七〇列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第二七一列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第二七二列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第二七三列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第二七四列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第二七五列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第二七六列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第二七七列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第二七八列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第二七九列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第二八〇列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第二八一列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第二八二列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第二八三列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第二八四列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第二八五列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第二八六列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第二八七列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第二八八列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第二八九列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第二九〇列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第二九一列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第二九二列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第二九三列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第二九四列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第二九五列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第二九六列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第二九七列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第二九八列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第二九九列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第三〇〇列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第三〇一列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第三〇二列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第三〇三列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第三〇四列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第三〇五列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第三〇六列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第三〇七列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第三〇八列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第三〇九列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第三一〇列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第三一一列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第三一二列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第三一三列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第三一四列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第三一五列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第三一六列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第三一七列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第三一八列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第三一九列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第三二〇列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第三二一列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第三二二列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第三二三列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第三二四列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第三二五列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第三二六列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第三二七列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第三二八列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第三二九列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第三三〇列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第三三一列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第三三二列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第三三三列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第三三四列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第三三五列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第三三六列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第三三七列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第三三八列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第三三九列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第三四〇列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第三四一列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第三四二列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第三四三列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第三四四列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第三四五列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第三四六列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第三四七列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第三四八列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第三四九列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第三五〇列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第三五一列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第三五二列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第三五三列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第三五四列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第三五五列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第三五六列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第三五七列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第三五八列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第三五九列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第三六〇列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第三六一列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第三六二列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第三六三列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第三六四列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第三六五列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第三六六列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第三六七列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第三六八列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第三六九列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第三七〇列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第三七一列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第三七二列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第三七三列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第三七四列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第三七五列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第三七六列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第三七七列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第三七八列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第三七九列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第三八〇列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第三八一列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第三八二列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第三八三列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第三八四列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第三八五列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第三八六列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第三八七列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第三八八列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第三八九列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第三九〇列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第三九一列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第三九二列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第三九三列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第三九四列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第三九五列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第三九六列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第三九七列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第三九八列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第三九九列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第四〇〇列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第四〇一列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第四〇二列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第四〇三列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第四〇四列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第四〇五列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第四〇六列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第四〇七列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第四〇八列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第四〇九列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第四一〇列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第四一一列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第四一二列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第四一三列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第四一四列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第四一五列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第四一六列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第四一七列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第四一八列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第四一九列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第四二〇列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第四二一列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第四二二列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第四二三列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第四二四列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第四二五列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第四二六列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第四二七列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第四二八列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第四二九列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第四三〇列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第四三一列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第四三二列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第四三三列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第四三四列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第四三五列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第四三六列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第四三七列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第四三八列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第四三九列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第四四〇列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第四四一列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第四四二列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第四四三列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第四四四列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第四四五列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第四四六列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第四四七列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第四四八列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第四四九列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第四五〇列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第四五一列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第四五二列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第四五三列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第四五四列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第四五五列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第四五六列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第四五七列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第四五八列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第四五九列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第四六〇列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第四六一列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第四六二列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第四六三列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第四六四列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第四六五列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第四六六列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第四六七列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第四六八列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第四六九列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第四七〇列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第四七一列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第四七二列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第四七三列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第四七四列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第四七五列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第四七六列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第四七七列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第四七八列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第四七九列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第四八〇列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第四八一列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第四八二列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第四八三列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第四八四列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第四八五列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第四八六列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第四八七列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第四八八列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第四八九列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第四九〇列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第四九一列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第四九二列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第四九三列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第四九四列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第四九五列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第四九六列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第四九七列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第四九八列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第四九九列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第五〇〇列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第五〇一列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第五〇二列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第五〇三列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第五〇四列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第五〇五列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第五〇六列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第五〇七列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第五〇八列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第五〇九列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第五一〇列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第五一一列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第五一二列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第五一三列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第五一四列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第五一五列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第五一六列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第五一七列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第五一八列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第五一九列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第五二〇列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第五二一列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第五二二列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第五二三列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第五二四列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第五二五列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第五二六列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第五二七列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第五二八列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第五二九列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第五三〇列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第五三一列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第五三二列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第五三三列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第五三四列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第五三五列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第五三六列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第五三七列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第五三八列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第五三九列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第五四〇列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第五四一列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第五四二列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第五四三列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第五四四列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第五四五列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第五四六列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第五四七列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第五四八列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第五四九列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第五五〇列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第五五一列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第五五二列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第五五三列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第五五四列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第五五五列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第五五六列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第五五七列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第五五八列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第五五九列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第五六〇列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第五六一列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第五六二列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第五六三列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第五六四列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第五六五列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第五六六列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第五六七列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第五六八列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第五六九列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第五七〇列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第五七一列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第五七二列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第五七三列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第五七四列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第五七五列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第五七六列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第五七七列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第五七八列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第五七九列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第五八〇列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第五八一列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第五八二列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第五八三列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第五八四列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第五八五列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第五八六列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第五八七列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第五八八列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第五八九列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第五九〇列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第五九一列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第五九二列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第五九三列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第五九四列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第五九五列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第五九六列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第五九七列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第五九八列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第五九九列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第六〇〇列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第六〇一列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第六〇二列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第六〇三列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第六〇四列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第六〇五列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第六〇六列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第六〇七列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第六〇八列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第六〇九列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第六一〇列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第六一一列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第六一二列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第六一三列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第六一四列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第六一五列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第六一六列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第六一七列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第六一八列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第六一九列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第六二〇列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第六二一列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第六二二列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第六二三列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第六二四列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第六二五列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第六二六列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第六二七列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第六二八列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第六二九列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第六三〇列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第六三一列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第六三二列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第六三三列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第六三四列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第六三五列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第六三六列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第六三七列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第六三八列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第六三九列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第六四〇列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第六四一列車は基隆發午後六時を七時に變更
一、第六四二列車は臺北發午後六時を七時に變更
一、第六四三列車は基隆發午後七時を八時に變更
一、第六四四列車は臺北發午後七時を八時に變更
一、第六四五列車は基隆發午後八時を九時に變更
一、第六四六列車は臺北發午後八時を九時に變更
一、第六四七列車は基隆發午後九時を十時に變更
一、第六四八列車は臺北發午後九時を十時に變更
一、第六四九列車は基隆發午後十時を十一時に變更
一、第六五〇列車は臺北發午後十時を十一時に變更
一、第六五一列車は基隆發午後十一時を十二時に變更
一、第六五二列車は臺北發午後十一時を十二時に變更
一、第六五三列車は基隆發午後十二時を一時に變更
一、第六五四列車は臺北發午後十二時を一時に變更
一、第六五五列車は基隆發午後一時を二時に變更
一、第六五六列車は臺北發午後一時を二時に變更
一、第六五七列車は基隆發午後二時を三時に變更
一、第六五八列車は臺北發午後二時を三時に變更
一、第六五九列車は基隆發午後三時を四時に變更
一、第六六〇列車は臺北發午後三時を四時に變更
一、第六六一列車は基隆發午後四時を五時に變更
一、第六六二列車は臺北發午後四時を五時に變更
一、第六六三列車は基隆發午後五時を六時に變更
一、第六六四列車は臺北發午後五時を六時に變更
一、第六六五列車は

銃後の護りは結核の豫防から

總督府醫務課長　二見直三

我が國に於ては結核で國民と同じ數だけ死んでゐるといふ事實は餘り知られてゐない。然し結核は國民病と稱せられる程に國民に多く、而も他の傳染病に比べ全く油斷のならない次第であつて、最近の統計に依れば結核死亡者は年々十五万人のをきに及び其の他罹病者に至つては實に百五十万人内外と推算せられてゐるのであります。我が國の國運に鑑み戰つて戰つて戰抜かねばならぬ銃後國民に於ても戰死者級は八万人であり、又彼の天會有の傷害を及ぼした關東大震災の犠牲者は十万人であつた、然るに結核と聞いた丈けで一種の戰慄を感じ、之によつて年々以上の人々が殺されてゐるのであります。然かも恐ろしき結核菌は、一旦人體に侵入すると容易に其の活動力を失はず、生涯に亘つて病原菌を排出し續けるのであります。從つて結核患者は常に周圍の人々に對して結核菌傳播の危險を與へてゐるのであります。

結核豫防の第一歩は結核菌を體内に入れないことであります。從つて結核豫防の第一歩は結核菌を體内に入れないことであります。從つて結核豫防の第一歩は結核菌を體内に入れないことであります。從つて

魯西亞船

(49)

土師清二 作
坪内節太郎 畫

釘

「萬公はー　ひどく急んでゐる。見張所の役人何名か、どうしたといふのだ？」

と、艀の出た後に青い顔をして、

「爺さぬ！　云つて見なさい」

「はア、はい」

「聞きませう、云つて見なさい」

「見張所の役人大勢、西村の兩名、何事かに驚かされてをりました。今朝發見したところでい、何者かに驚かされてをりました。今朝發見したところでい、何者かに驚かされてをりました。今朝發見したことを只今聞番所の同心衆が知らせて參りました」

「さうか、聞番、大變ちや」

と、云つた半兵衛の顏色には、大變だと聞つてゐる顏は少しも見えなかつた。

「よろしい。わが、同心衆に座はう」

「はい、聞番所に參ぜよと仰せでござりまする」

「直ぐ行く」

半兵衛は、黒助と庄兵衛を顧みて、

「ついて來い」

「はい……？」

「何？　わしの留守に船釘があると？　お前たちの不注意だ。土方の近くも船釘を打つてゐる。職人一組に一日づつ割當てられて、みんな船釘を打つてゐるのだ。船釘は所謂船釘の形で、鍛接ぎ目は平滑に仕上げてある。頭の方を潰して、釘を入れ、打ち込んだ釘の頭に當てて打ち込む。打ち込んだ釘の頭に當てて打ち込む。打ち込んだ釘の頭に當てて打ち込む。

臺灣日日新報
昭和十四年五月九日第三種郵便物認可（朝刊一部二頁）
臺灣日日新報 昭和十四年五月十日（水曜日） 第一万四千六十一號 A（一）

京漢線西方の頑敵
雪崩を打つて敗走
挺身隊を陣頭に快追撃

【漢口九日發同盟】京漢線西方戰線北方正面の澤山、松枝、寺岡、山口、谷部隊は去る一日以來夜を日に次いで激戰實に一週間七日遂に堅固を極める當面の敵要塞線を蹂躙し去り八日早朝應山を去る西方百二十キロの敵據點○○を占領した、又同戰線南正面の加藤、愛甲、間宮、勝谷、金田、吉川の各部隊も浙河市北方の敵陣地線を完全に屠り早間田挺身部隊を陣頭に快調の驀進を續けてをり敵は八日朝來西北方へ雪崩を打つて敗走を開始した

皇軍に續々投降
張自忠軍戰意を失ふ

【漢口九日發同盟】大洪山脈の峻嶮地帶の敵を追つて猛進擊中の我が江口、磯谷、後藤、行方、長瀧の各部隊は峨々たる峻嶮を冒し一日三十數粁の快速をもつて敗敵を急追し各所に殘敵を殲滅してゐるが、同方面の敵は第五戰區右翼兵團張自忠麾下の部隊で戰意頗る低調であり、八日來我が陸軍機が空より敵軍に撒布した投降證を持つて續々我軍に投降し來り其數既に數百名に上つてゐる

南方拓殖政策は
經濟日本の基調
拓相、地方長官に訓示

【東京九日發同盟】九日午後の拓務省預算委員會第一分科會（委員長小倉正恒氏）は外務、拓務兩省所管の豫算に關し左の如き説明があつた

【説明】
重慶政府愈よ奥地へ退散
全面的に喪失する抗戰機能

一
我が皇軍精鋭の一隊が二日、四日、五日と三日間に亘り矢繼早に發行した重慶大轟炸は、抗日首都の軍事施設を徹底的に粉碎し、茲に物的にも精神的にも大打撃を與つた所謂重慶は既に廣東、武漢陷落後に於ける抗日戰線の後方基地として、又抗日政權の奥地退入地として、更に又抗日政權の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱であつたのである。而も今回の重慶轟炸は抗日政權の最後の一線を粉碎し、抗日戰線の最後の一大支柱を撤去したのであつて、これは實に抗日政權の最後の死命を制したものと言ふも過言ではない。從つて今後重慶は抗日政權の奥地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのである。

二
天に唾する所謂四月攻勢は却つて自ら求めて國滅される愚擧に終り我軍の戰果を擴大しつつある矢先き抗日首都の分散的移轉は軍の士氣に一大打撃を與へ、抗日戰線の崩壊を一層促進するものである。

三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日戰線の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのであつて、これは實に抗日政權の最後の死命を制したものと言ふも過言ではない。從つて今後重慶は抗日政權の奥地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのである。而も抗日政權の奥地退入は單に軍事的價値を喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。即ち抗日政權の内部的崩壊と軍事的崩壊とは相俟つて抗日政權の滅亡を促進するものである。

四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

二十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

三十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

四十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

五十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

六十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

七十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

八十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十一
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十二
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十三
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十四
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十五
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十六
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十七
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十八
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

九十九
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

百
抗日政權の奥地退入は、從來の如く抗日政權の後方基地として、又抗日戰線の最後の一線として、抗日戰線の一大支柱としての價値を全く喪失したのみならず、抗日政權の内部的崩壊を促進するものである。

山岳地帶遁入の
敵の據點を猛襲
海南島で殘敵殲滅戰

力等を基礎條件として攻撃すること
一、一部國民に就て徴入許可制
にも國家としては勿論、地方設備としても完全に發展的機能の發揮を意味するのであつて新政權の樹立を以つて其の終焉を告げるものではない。

【海口九日發同盟】四月中旬に於ける海南島東西の大討伐により瓊山、瓊東、瓊山、瓊西に向つて進擊中の我が陸軍部隊は元來海南島、但江の地形にはなく、西部諸省にある"と嘯き民衆感情の惡化に拘らず、最も抗戰の氣強地である"と嘯き民衆感情の緩和に努めてゐるが、重慶の由來

けふ公布された 米穀移出管理令

買上價格は委員會に諮問の上 本月末頃迄に發表の豫定

台灣米穀ノ移出ヲ管理スル爲米穀移出管理令ヲ定メラレ、昨九日附ヲ以テ公布セラレタ、同令ハ本日ヨリ施行セラルルコトニナツタ、同令ノ全文ハ別掲ノ通リデアルガ、其ノ骨子ハ次ノ如クデアル

一、米穀ノ移出ハ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシムルコト

二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ買上ヲ命ズルコトアルベキコト

三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ保管ヲ命ズルコトアルベキコト

四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ賣渡ヲ命ズルコトアルベキコト

五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ米穀ノ處分ヲ命ズルコトアルベキコト

六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ置カシムルコトアルベキコト

八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

三十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

四十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

五十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

六十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

七十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

八十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

九十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百二十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百三十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百四十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百五十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百六十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百七十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百八十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

百九十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百二十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十七、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十八、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百三十九、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十一、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十二、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十三、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十四、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十五、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルベキコト

二百四十六、許可ヲ受ケタル者ニ對シ命令

天馬異聞と島原一揆見聞記

——歐人の錄する島原の亂——（六）

宮崎震作

私は前回迄に日本に在留して實地に親しく島原を目擊若しくは見聞した數人の手に成る一種の記錄を聞らうとして、既にその一つたる「天馬異聞」のために僚らに多くの紙數を費してしまった。故に他の一つたるアルテ・コレアの「島原一揆見聞記」に關しては、重複を避けて其の概略を記するだけに止めようと思ふ。

「島原一揆見聞記」の原本は、前にも記したやうに、現在もポルトガルのアジュダ圖書館に保存されてゐるであらう。太田牛一郎氏の「ポルツガル記」に依つて此の稀本の同館に所藏されるを知り、「大海の初まる處」、大都の繁さる處のリスボンを訪ふ事せられやうにして「ポルツガル記」に當時されたる。そして其のコピーを入手し、一方には彼て私が本紙に紹介をうた拙稿「日本耶蘇敎切支丹文學」中に記述して置いた通り、スペイン國エスコリアル圖書館に保藏されて「和蘭船記事」と題見されたるに依つて、此處にも其の寫本を入手し、之を「島原一揆見聞記」と仮名して、同年の「中央公論」誌上に發表された。原名は島原一揆とその有名なる仏蘭西、亜に渡航人の仏蘭記」と云ひ、一六四二年のリスボン出版である。

原著者ドアルテ・コレアはポルトガルの貴族として日本に渡來し、切支丹の敎ゑに感じて入敎してゐた。後島原の亂に參加して捕へられ、島原の籠城時は大村に入牢してゐた。後島原に送られて斬敎に處せられた。

右の記錄は彼が大村の牢に入敎中、獄友勸められて來る或七ヶ月間を知つた關係、並に叛亂の前因後果を記して之を「日本耶蘇敎會の興廢」と題して本國に送つたが、後島原の籠城時は大村に入牢してゐた。

右の記錄は彼が大村の牢に入敎中、獄友勸められて來る或七ヶ月間を知つた關係、並に叛亂の前因後果を記して之を「日本耶蘇敎會の興廢」と題して本國に送つたが、後島原の籠城時は大村に入牢してゐた。

歸つてここに至れば、眞に感慨むべきは敎會として信仰を貫いた基等のキリシタン・バテレンであつたか、それとも迫害に屈して棄敎の烙印を額に受けた多くの邦人であつたか、今更に感慨無量のものがある。

（未完）

筆隨きがは

墨竹の研究

私は臺灣にあつた文人畫の大家謝琯樵や許筠の畫いた墨竹を見て興味を覺え、古人の筆蹟を學ぶ傍ら寫生により、臺灣産の刺竹、麻竹などそれぞれの特長を現はすことに努力してゐますが、寫生から工夫して左方に開く葉の自然の姿態は、筆を逆にして左方に撇ふ方がよく現はれるので、やつてゐますと或人が之を見て逆筆で違法の樣に評しましたが何となく氣になつて絶えず先人の手法を注意して調べてゐましたが、其後大久保石壽先生から割愛された元の柯九思の墨竹譜の中に、同じ筆法を示してあるのを見出し、又我國の古人にも同じ運筆があることを知りましたので安心も絶えず注意を怠らなかつたお蔭と思ひます。

日本畫家　野間口墨華

良書二種

池田敏雄

『讀書』

西村眞次氏著

『日本民族理想』

「日本民族理想」は誰が手にしても、感激深く一讀することの出來る好著である。

日本精神と日本民族性を一つに見る學者もあるが、著者は日本精神を原義として、過去から現在に至つて絶えず流れて來た民族の生活理想であるとし、民族性は日本民族が三千年の歷史を通過する間に體得したところの民族性格であると定義して、あくまでも日本獨

史の指示する所に從つて、民族性及び民族理想を概說し、有效な結果を擧げてゐる。讀む本書の內容は、

日本文化の基礎、日本文明の因子、古代日本人の性格、基礎的共同現象、日本の民族性と其現實方、日本文化と民族性との交涉、日本民族の生活理想、民族理想の傳承、日本民族性の特徵等

十二章に亙り、從つて上卷と下卷を生ぜんとし、眞の民族文化を發揚し、眞の民族理想を闡明し、それに相應しい文化と文明との發達を期し、日本民族の發展と日本國家の發展とを念願した著書である。（菊判並製三二二頁、一・三〇、東京市芝區三田四國町三四番地、三省堂書店）

尾崎士郎氏の從軍『文學部隊』記

本書は昨秋內閣情報部より派遣された第一次ペン部隊の一員として武漢攻略戰に參加した尾崎士郎氏の從軍記である。

本書には九月二十三日の會合より九江攻略戰に至るペン部隊一行の行動を小說風に描いた「ある從軍部隊」をはじめ「揚子江の夜」、「廬山麓」、「第一線に立つ」、「廬山展望」、「戰場ノート」等戰場から得た珍しい心の動搖を書き綴つた從軍記に至るペン部隊一行の行動を小說風に描いた「ある從軍部隊」をはじめ「揚子江の夜」、「廬山麓」、「第一線に立つ」、「廬山展望」、「戰場ノート」等戰場から得た珍しい心の動搖を書き綴つた從軍記に至るまで十二篇を收めてゐる。何れも戰爭の實態に卽し、文學をもつて、從つて國家に貢獻し、民族の理想を高めようとする著者の氣魄と熱意が全篇に溢つてゐて、單調に流れることなく讀ませる。（四六判並製三四頁、一・四〇、東京市牛込區天神町一）

讀書

良書二種

池田敏雄

日本

即席謎談會

6月號

定價八十錢　送料四錢

出席者

青木二郎　石黒敬七
城昌幸　中谷拓雄
澤野久雄　芦辺十蔭
三介

博文館
振替東京一二四〇

探偵クイズ家殺人事件

★何處の神の思召し（福川　秀美）
★木村義雄の事ども（盤根　名人）
★カメラ從軍苦心談（近藤　勇郎）
お風呂と寄所（ア・ホール）
金庫（シンプソン）

人生踏切番　伊馬鵜平
ベビイ・クマ夫傳　城戸禮
家庭救急藥　南達彦
大いなる出發　平山清郎
帶止事件の箱　武野藤介
謎　阿部德藤

二回讀切國際小說　怒る地線

（後篇）

橘外男

アフリカ奧地のあの恐るべき「惡魔の尿溜」へ今や人獸獨逸の探檢隊の一行が入らんとする日本人唯一人の「尿ヌエ」等の運命は？「魚か畜か」の「人尿ヌエ」の製造秘密は？小栗虫太郎の快作

探偵

小栗虫太郎

ローマ日本晴　攝津茂和
正札騷動　大阪圭吉
空タ　丹羽文雄
無夫人　泉谷彥
乳姥櫻　鳴山草平
鐵砲百合　秘田余四郎
追跡　椋鳩十

要視察人

三甲賀郎

ダイヤモンド騷動　海野十三
戀愛工場　大下宇陀兒
キャラコさん幸福な朝　久生十蘭
人生踏切番　伊馬鵜平
ベビイ・クマ夫傳　城戸禮
家庭救急藥　南達彦
大いなる出發　平山清郎
帶止事件の箱　武野藤介
謎　阿部德藤

クイズ家殺人事件

最近探偵小說に現はれた探偵小說界の王者ヴァン・ダイン氏の探偵法と商用に探偵小說に應用したもの。探偵小說ファン見逃すべからざるヴァン・ダイン作

全國品切れなし

シゲトクラ

いよ番一

母乳代用

イヌイ

バンボーペン

見本九錢送呈

大阪市西區二町後備師團內　岸田商行

尿路洗滌

タルリン

淋病（急慢性）消渴（女子淋病）

安全、快速に解決する洗滌藥

タルリンは

大白色細微の粉末で使用に臨み溶解して用ふ故に藥液は清新にして顏の衛生的なり

大タルリンは尿道洗滌により直接患部に作用するから極めて快速に其效が現はる

大タルリンは泌尿界に五十餘年の歷史と信用を有す

【藥價】最も低廉

七日分……五十錢
十五日分……一圓

全國一流藥店にあり

大阪市堂製藥所

本舖　盛大堂製藥所

振替大阪二五〇〇番

別冊大阪朝日

號月六　附錄つき

虫の日

錄大相撲

綾瀨無雙座談會

寫眞畫報

銀光子夏戀譜

海淚の勝負

愛の馬場

南洋の百貨店王

岡野繁藏

天地と共に働け

永井柳太郎

逸話で描く拓相小磯大將

アメリカへ贈つた感謝の詩の反響

幽鬼の塔　探偵小說　江戸川亂歩

明治天一坊　傳奇小說　川口松太郎

家庭の旗　現代小說　山岡莊八

南海の祕密　軍事小說　福永恭助

新篇坊っちゃん　長篇小說　尾崎士郎

八丈つむじ風　股旅小說　長谷川伸

錢屋五兵衞　長篇戲曲　永井柳太郎

名士の慌てぶり

スポーツ界噂話

名士の運動姿樣々

日に向く花　現代讀切　丹羽文雄

愛妻武士　時代讀切　土師清二

結婚の設計　現代讀切　中村武羅夫

吳服屋日來　時代讀切　山手樹一郎

吉代眞幣　探偵讀切　甲賀三郎

留守宅の歌　現代讀切　森本岩夫

女房長脇差　神田伯龍

將軍と掏摸　天野莫太郎

日の丸音頭　笠原良三

軍國娘行進曲　麻生良雄

珍らしい船物語　大江洪太郎

名流寸話

節約は物に感謝する心から　佐藤義亮

詩と音樂の國　三上孝子

イタリヤの土產話

時局早わかり問答　永戸政治

附錄共八十錢　東京牛込　新潮社

南風の歌

（第十回）

男性の涙（二）

その男というのは野郎で、その女というのは悪代だという事に幸子にも薄々判つた。野郎と悪代との間が、どうなつてゐようと、今の幸子にとつては、それは彼の世界の出来事ほどにしか考へられなかつた。

「いいえ」

と、幸子は、はじめて口を開いて、

「悪いまま。私、あんな人の死なんか何とも思つちやゐないんです——はじめから、何でもなかつたんだ」

「つまあ、あの男やあなかつたのかう、何人かの男なのか？」

「栄吉さん！私　そんな——」

そんなではない。そんなに男の事にばかり心をとられてゐるやうな、そんなではないといふ事が、その慨めしげな眼附に現はれてゐた。

「外の男でなきや、矢張、あの男なんだ——さうだらう？」

「私、男のことなんか——」

とはもう喋べつてゐなかつた。お前は、

「悪にとつて置き度いと思つてゐるお前の純情が、何故、私に判つてくれないのだ！」

と、栄吉は手をさしのばすと幸子の肩を引寄せた。

「何故云へないんだ！」

「それだけは許して、ね、それだけは私、どうしても云ひたくないの——云へないの——だけどね、栄吉さん、私、あんたの思つてゐるほど、そんなにまで悪者はいやあないの。私の身體、まだ——」

「何を云つてるんだ」

「信じられるもんか、いくらおれが馬鹿だつて、そんな手供だましに見たいな事を本当に出来るかつてんだ。畜生！」

「まあ、ひどい！」

「何がひどい？おれな、幸ちやん、お前を叩き殺してやりてえ気持がする」

「え、叩き殺して頂戴。あんたに叩き殺されたら私も本望だわ」

「何を云ふんだ馬鹿！」

栄吉の眼からはぼろ〳〵と涙がふり落ちる。

これや相当深刻な話だ！と直感した良介は、不安に包まれた彼氏の心境を察し、民の復讐をするを、よく、治安は全くおとなしい娘だと思つてゐたが、矢張、男命が出たんだと」

「栄吉さん、本当に、私、そんな女に見える？」

「や、さう云つてゐるその顔を見りや、そんななにも見たいさ、けれど、お前のしてゐることを見ると、さうと外、思へないぢやないか——ちやんと学校まで卒業してゐながら、女給になつたりして——女給なんてものは廃目な稼業の者に出来る商売ぢやないんだと」

「だつて外に仕方がなかつたんですもの」

「仕方がなかつたら、何故、引越先生の処へ相談に行かなかつたんだ、あれの所へだつて——そりや、おれの能は判らなかつたかも知れねえがな——」

「あんたは、急に何処かへ行つてしまつて——」

「お前の飛躍したなかつたのも悪いが、あの男と妾関係になる筈なんだと思つたから、おれはわざとお前から遠ざかつたんだ」

「あんたは、みんな思ひ違ひをしていらつしやるわ」

「つや、何か外に理由があるのかい？」

「……」

「理由があるんなら云つて呉て呉れ」

「……」

「幸ちやん、何故、黙つてるんだよう！」

栄吉は手をさしのばすと幸子の肩を引寄んで

「おい！云つて呉れつたら！」

「何故云へねえんだ！」

「それだけは許して、ね、それだけは私、どうしても云ひたくないの——云へないの——だけどね、栄吉さん、私、あんたの思つてるほど、そんなにまで悪者はいやあないの。私の身體、まだ——」

ラヂオ

朝
【七・〇〇】朝の挨拶ラヂオ體操、朝の音楽（レコード）
【七・一五】柄鏡（ウオーレン作曲）独奏の歌（同右）ヴィオラ・ジョスランのエヤ唄コンセラ・ジョスランの王女唄コダール作曲ラ・シャンスカ
【七・三〇】國民歌謡（第北）日本と英国（第二十五課）朗読と作文と英人の海外發展（二）ホ・ボ・ボ氏
【八・〇〇】ニュース
【八・一〇】朝の音楽（レコード）
【八・二〇】家庭婦人（第北）
【八・三〇】体操（第北）
【八・四五】ラヂオ紙芝居
【九・〇〇】午前の時報（東京）
【九・〇一】株式相場（第北）
【九・一〇】ニュース
【九・二〇】婦人の時間（東京）
【九・四〇】ラヂオ体操（第北）
【九・五〇】ニュース
【一〇・〇〇】学校放送（第北）
【一〇・三〇】ニュース
【一〇・四〇】ピアノ独奏（第北）
【一一・〇〇】ニュース
【一一・一〇】ピアノ独奏（第北）
【一一・二〇】ニュース
【一一・三〇】ニュース
【一二・〇〇】ニュース
【一二・一〇】ニュース
【一二・二〇】ニュース
【一二・三〇】ニュース
【一二・四〇】ニュース
【一二・五〇】ニュース
【一三・〇〇】ニュース
【一三・一〇】ニュース
【一三・二〇】ニュース
【一三・三〇】ニュース
【一三・四〇】ニュース
【一三・五〇】ニュース
【一四・〇〇】ニュース
【一四・一〇】ニュース
【一四・二〇】ニュース
【一四・三〇】ニュース
【一四・四〇】ニュース
【一四・五〇】ニュース
【一五・〇〇】ニュース
【一五・一〇】ニュース
【一五・二〇】ニュース
【一五・三〇】ニュース
【一五・四〇】ニュース
【一五・五〇】ニュース
【一六・〇〇】ニュース
【一六・一〇】ニュース
【一六・二〇】ニュース
【一六・三〇】ニュース
【一六・四〇】ニュース
【一六・五〇】ニュース
【一七・〇〇】ニュース
【一七・一〇】ニュース
【一七・二〇】ニュース
【一七・三〇】ニュース
【一七・四〇】ニュース
【一七・五〇】ニュース
【一八・〇〇】ニュース
【一八・一〇】ニュース
【一八・二〇】ニュース
【一八・三〇】ニュース
【一八・四〇】ニュース
【一八・五〇】ニュース
【一九・〇〇】ニュース
【一九・一〇】ニュース
【一九・二〇】ニュース
【一九・三〇】ニュース
【一九・四〇】ニュース
【一九・五〇】ニュース
【二〇・〇〇】ニュース
【二〇・一〇】ニュース
【二〇・二〇】ニュース
【二〇・三〇】ニュース
【二〇・四〇】ニュース
【二〇・五〇】ニュース
【二一・〇〇】ニュース
【二一・一〇】ニュース
【二一・二〇】ニュース
【二一・三〇】ニュース
【二一・四〇】ニュース
【二一・五〇】ニュース
【二二・〇〇】ニュース
【二二・一〇】ニュース
【二二・二〇】ニュース
【二二・三〇】ニュース
【二二・四〇】ニュース
【二二・五〇】ニュース
【二三・〇〇】ニュース
【二三・一〇】ニュース
【二三・二〇】ニュース
【二三・三〇】ニュース
【二三・四〇】ニュース
【二三・五〇】ニュース
【二四・〇〇】ニュース

夜
【七・〇〇】（第北）ラヂオ紙芝居「小供の王国」西崎大三郎作）
【七・一〇】ニュース
【七・二〇】國民歌謡（大阪）太平洋行進曲（海軍省撰定）海軍軍楽隊、ピアノ伴奏
【七・四〇】（第北）國民歌謡
【七・五〇】明日の放送（第北）
【八・〇〇】ニュース
【八・一〇】北京朝ニュース
【八・二〇】國民歌謡
【八・三〇】馬術朝ニュース
【八・四五】【九・〇五】家族自慢（第北）
【九・一〇】【九・二五】國民歌謡
【九・三〇】ニュース
【九・四〇】特別講演（第北）最近世界風雲の動勢（國際政経学者）
【一〇・〇〇】國民歌謡
【一〇・一〇】放送局開催ニュース（各局）
（各局明日の放送番組）各局
【一〇・三〇】ニュース
【一〇・四〇】ニュース
【一〇・五〇】ニュース
【一一・〇〇】ニュース
【一一・一〇】ニュース
【一一・二〇】ニュース
【一一・三〇】ニュース
【一一・四〇】ニュース
【一一・五〇】ニュース
【一二・〇〇】ニュース

厦門樂土建設 一周年記念の夕

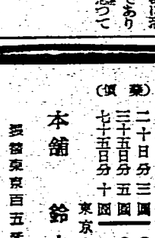
八・〇〇 厦門から放送

昨年五月十日未明、我勇敢なる陸戦隊が敵前上陸敢行門島要塞に敵前上陸を敢行し、敵の鉄壁を破り同島を占領してより、この方すでに一周年、官民一致協力の結果大なる労力は皆無とその復興を終め、厦門の楽土と至つた。ここにその一周年記念日を迎へるに際し、その復興の資状を全島民に傳へ、その目的を以て厦門

一、軍歌と吹奏楽　海軍軍楽隊

△厦門攻略の歌（松島慶三作詞、海軍軍楽隊作曲）

二、記念講演　厦門根據地隊長　宮田義一



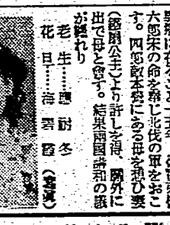
△厦門島攻略一周年を迎へて　昨年五月帝國海軍陸戦隊が厦門島を攻略した當時の陸戦隊司令官として活躍した宮田義一少将

三、舞楽「抜頭」（厦門市大新）

宋朝の時代、崗宗が帝位に即いた頃の話。元（蒙古）の兵が宋の城に侵入し、宋の将軍楊業の子、楊四郎を捕へられた元国王の女婿となつた楊四郎は異郷に在ること十五年、故郷恋しさに堪へず、ある日父楊業の命を救ひ北伐の軍をおこす。四郎敵本営にある母を訪ひ、共に出で母と會す。結果国境線の敵が破れ

老生……陳　耐冬
花旦……洛　宗　蓉（客演）

回復し穀倉及び出兵、或は敵本の民衆等各方面に亘つて工作猛烈を展開するに至つた。厦門を回復し、友邦の喪も領地と確保と治安に多大の努力に依つて徒来の前線に一般民衆も亦安堵の色を抱かないでもなかつたが、その後に於ける友軍人の公正なる態度とその適切なる善隣政策に依り



して治安維持法は結成され、不安に包まれた官民の心境は漸々、良民の復讐するを、よく、治安は全くおとなしい娘だと思つてゐたが、矢張、男命が出たんだと」

「栄吉さん、本当に、私、そんな女に見える？」

「や、さう云つてゐるその顔を見りや、そんななにも見たいさ、けれど、お前のしてゐることを見ると、さうと外、思へないぢやないか——ちやんと学校まで卒業してゐながら、女給になつたりして——女給なんてものは廃目な稼業の者に出来る商売ぢやないんだと」

「だつて外に仕方がなかつたんですもの」

「仕方がなかつたら、何故、引越先生の処へ相談に行かなかつたんだ、あれの所へだつて——そりや、おれの能は判らなかつたかも知れねえがな——」

「あんたは、急に何処かへ行つてしまつて——」

「お前の飛躍したなかつたのも悪いが、あの男と妾関係になる筈なんだと思つたから、おれはわざとお前から遠ざかつたんだ」

「あんたは、みんな思ひ違ひをしていらつしやるわ」

「つや、何か外に理由があるのかい？」

「……」

「理由があるんなら云つて呉て呉れ」

「……」

「何を云つてるんだ」

「信じられるもんか、いくらおれが馬鹿だつて、そんな手供だましに見たいな事を本当に出来るかつてんだ。畜生！」

「まあ、ひどい！」

「何がひどい？おれな、幸ちやん、お前を叩き殺してやりてえ気持がする」

「え、叩き殺して頂戴。あんたに叩き殺されたら私も本望だわ」

「何を云ふんだ馬鹿！」

栄吉の眼からはぼろ〳〵と涙がふり落ちる。

これや相当深刻な話だ！と直感した良介は、不安に包まれた彼氏の心境を察し、民の復讐をするを、よく、治安は全くおとなしい娘だと思つてゐたが、矢張、男命が出たんだと」

「栄吉さん、本当に、私、そんな女に見える？」

「や、さう云つてゐるその顔を見りや、そんななにも見たいさ、けれど、お前のしてゐることを見ると、さうと外、思へないぢやないか——ちやんと学校まで卒業してゐながら、女給になつたりして——女給なんてものは廃目な稼業の者に出来る商売ぢやないんだと」

「だつて外に仕方がなかつたんですもの」

「仕方がなかつたら、何故、引越先生の処へ相談に行かなかつたんだ、あれの所へだつて——そりや、おれの能は判らなかつたかも知れねえがな——」

「あんたは、急に何処かへ行つてしまつて——」

「お前の飛躍したなかつたのも悪いが、あの男と妾関係になる筈なんだと思つたから、おれはわざとお前から遠ざかつたんだ」

「あんたは、みんな思ひ違ひをしていらつしやるわ」

「つや、何か外に理由があるのかい？」

「……」

「理由があるんなら云つて呉て呉れ」

「……」

「何を云つてるんだ」

「信じられるもんか、いくらおれが馬鹿だつて、そんな手供だましに見たいな事を本当に出来るかつてんだ。畜生！」

「まあ、ひどい！」

「何がひどい？おれな、幸ちやん、お前を叩き殺してやりてえ気持がする」

「え、叩き殺して頂戴。あんたに叩き殺されたら私も本望だわ」

「何を云ふんだ馬鹿！」

栄吉の眼からはぼろ〳〵と涙がふり落ちる。

病毒性高血壓に伴ふ 脳溢血と中風

手當は排毒と血液淨化で
病因を除く事が肝要です

脳溢血 中風 心臓麻痺 便秘

がある。おとなの便秘などは、極軽微なもので、殆んどこれに悩まされてゐるといつても過言ではない。便秘は病気の原因であり、結果であるといふ事は、医学上の定説であつて、何人も否定することは出来ない。

それから、この酸素硬化症や高血壓症に伴随して起る病気に

一般病毒

の感染を防止に留意しておきます。この病は、細菌の一種より、眼に見えない程の極小な病原体で、普通の顕微鏡でも見えないのであります。

この病は、細菌の一種より、眼に見えない程の極小な病原体で、普通の顕微鏡でも見えないのであります。

治療は早くす

る事が肝要です。即ち発病後、熱が出たり、咽喉が腫れたりして、扁桃腺炎とか、脳膜炎とか、脳膜炎とか、脳膜

第一線の將兵へは一 此上もなき慰問

高雄市の企て好評嘖々

【高雄電話】高雄市にては健全なる銃後の生活を戰線にして手紙を送へた銃後通信を戰線の勇士に送つて第一線との連絡に努力をかけるべく計畫中であつたがこの計畫は一時的のものとして捨て去つては折角の感激がないから準備中機關する事に決定されたこれは軍事扶助會發行パンフレットとして毎月戰線（銃後の事となり且下面でも好評を博して居る

第一號用の慰問原稿募集中であるが最後の締切の期や思ひ出の街や山や故郷の海を月一回は必ず勇士の手許に届けられる事となるの慰問計畫中のヒットとして各方

校有財産造成に 有用樹種の造林

時宜を得た國策的企

【高雄電話】高雄州にては州下各學校に實施中の校有林造成の國策に順應し校有財産造成の一助として州下中學校並に實業補習學校に對し校有林造成の國策に順應し校有林造成の國策に順應し校有林造成の國策に順應

アイの胃腸調整健康漫畫

工場病とまで言はれる呼吸器疾患に代つて胃腸を病む人が最近急激にふえて來ました

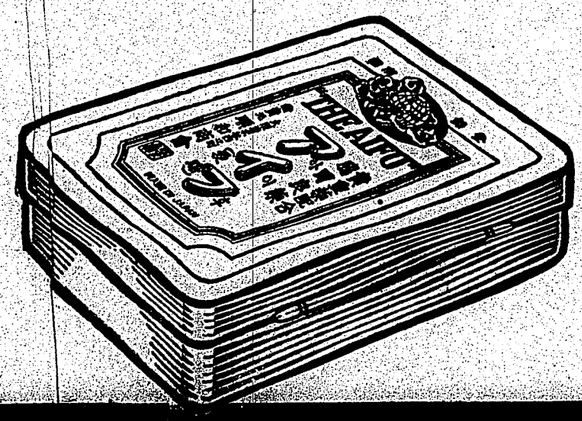
食慾があつても思ふ程食べられないとか、何も食べない時でも胃や下腹が張つて重苦しく胸がやけ、嘔つき、噯氣が出るばかりでなく、振水音や腹鳴りがして空腹時には痛む、下痢、便秘に困る……などと云ふのも皆これがためで、油斷をすれば慢性症に轉じたり、潰瘍や癌腫を誘發して仕事など全く攻養ならなければならない不幸に陷らないとも限りません。

！るめ弱を腸胃が生攝不と常過

これは勿論、殘業、深夜業の强行等、過度の勞働による疲弊、睡眠不足に加へて、食事時間の不規則、過飲、過食、偏食などの不攝生に基因してゐるものでありませう。

事實、胃腸に無理な負擔をかけたり過度の刺戟を加へてゐると、粘膜が荒れて炎症を起したり、胃腸筋が弛緩して收縮作用が衰へたり、分泌神經が興奮して胃液過剩症や胃酸過多症を起しますから、胃腸運動の圓滑を缺き、消化酵素の分泌を妨げる等、種々の障害を來すのであります。

ですから、かうした症狀の疑ひある方は、早期に治療藥**アイフ**を服用して、適正な治療と周到な攝生により病魔の侵蝕を極力防止することが大切であります。治療藥**アイフ**には病源、對症二重に働く作用があり、主藥が胃腸內壁の病變部に沈着して炎症を癒し、粘膜を强め、弛緩を引緊め、分泌や蠕動機能の異常を整へるとともに、腸管內の有毒物質を吸着して體外に排出する等、廣汎な病源治療を營み、併せて、胸やけ、噯氣、惡心、胃痛、腹痛、下痢、便秘、嘔吐等の諸症狀をも消退しますから食慾は進み、消化は捗どるなど、胃腸機能が自然に快調、活潑となり、元氣健康を恢復せしめます。



價	藥
錢五十七分日四	藥加減胃腸調整
錢十五圓一分日八	藥胃腸調整
圓三分日七十	藥胃腸調整
圓五分日一十	藥胃腸調整
フイア製粉にに	藥胃腸調整
フイア減加にに	藥胃腸調整

▶りあに店藥名有の所る到國全◀

發賣本舖 順和商會
大阪市東區清水谷西之町
電話大阪五四三五番・〇〇〇五(東)・五〇〇二・五〇〇三番
東京 東京市本郷區真砂町九番地
電話小石川(八四〇)一〇一番・京橋六二八二番
大連 大連市連山通九番地
電話大連三七六五番・電話七六〇八番

皇后陛下には蠶を御掃立遊ばさる
紅葉山御養蠶所に出御

【東京九日發同盟】皇后陛下には本發御召列車にて午前十時御養蠶所に御着、御直ちに御養蠶所内紅葉山御養蠶所において九日御掃立始めの儀を行はせられた、この日陛下には御親ら催青紙初の出御であらせられるが、侍従長大夫保科女官長以下を従へさせられ午前十時御養蠶所に御着、御自ら羽根箒をとらせられて御掃立の儀を行はせられた、また御給桑たとあらせられた御出御にて御養蠶所の外に御臨しく十一時過宮御

後鳥羽天皇の御尊像と御由緒深い品々發見
大阪の藤田氏が祕藏の品

【大阪九日發同盟】後鳥羽天皇の七百年御式年祭が滞りなく終了し国民喜ばしく天皇の御遺徳を偲び奉つてゐる折柄、大阪市井に祕藏されてゐた御宸筆をはじめ夥しい御由緒深い品々が二日大阪府社寺民俗部に持ち込まれ係員を驚かした

祕藏の主は大阪北区金屋町一ノ五百番地藤田卯三郎氏で同氏方では先祖代々これら御宸筆の品々を祕藏してゐたが心ならずも今回の大戦に際し将来の災禍を慮り御由緒深い品々が二日大阪府社寺民俗部に持ち込まれ係員を驚かした

【大阪九日發同盟】後鳥羽天皇の御宸筆御消息一通、御製和歌懐紙一通、後醍醐天皇御宸筆御消息一通、後村上天皇御宸筆御消息一通、後小松天皇御宸筆御消息一通、後土御門天皇御宸筆御消息一通、後柏原天皇御宸筆御消息一通、後奈良天皇御宸筆御消息一通、後陽成天皇御宸筆御消息一通、後水尾天皇御宸筆御消息一通、後光明天皇御宸筆御消息一通、後西天皇御宸筆御消息一通、霊元天皇御宸筆御消息一通、東山天皇御宸筆御消息一通、中御門天皇御宸筆御消息一通、桜町天皇御宸筆御消息一通、桃園天皇御宸筆御消息一通、後桜町天皇御宸筆御消息一通、後桃園天皇御宸筆御消息一通、光格天皇御宸筆御消息一通、仁孝天皇御宸筆御消息一通、孝明天皇御宸筆御消息一通、明治天皇御宸筆御消息一通、後鳥羽天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後醍醐天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後村上天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後小松天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後土御門天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後柏原天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後奈良天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後陽成天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後水尾天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後光明天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後西天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、霊元天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、東山天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、中御門天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、桜町天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、桃園天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後桜町天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、後桃園天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、光格天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、仁孝天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、孝明天皇御宸筆御製和歌懐紙一通、明治天皇御宸筆御製和歌懐紙

相撲むかし話

江口福來

晴天十日

今場所から十日興行となつた國技館の出來る前のことを思ふと時勢も變つたなあと感ぜられる。國技館の出來る前には、晴天十日だつた。それは、觸れ太鼓から、長い間つづき、相撲に限り晴天十日興行と、すべての人が思ひ、それを疑ふ人さへ（信じてゐた）その晴天十日も、觸れ太鼓の出場は、九日間であつて、最後の日はとうだつた。觸れ太鼓の役人ばかりはあつたが、相撲はとらなかつた。最後の日には、なぜ、觸れ太鼓が必要だつたのか。

今でも、觸れ太鼓の相撲には、十露といふものがないが、我が邦の相撲にも、十露がなかつた。觸れ太鼓の知らせ、番附の披露、土俵の祝ひ、櫓太鼓の知らせ、櫓太鼓